midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

April 2012 No.326-327

４月号の１枚：恒例のニホンミツバチの蜂蜜の「収穫」

［巻頭言］　桂川・相模川流域を繋ぐ

源流・上流（山梨県・東部）～中流（上野原、相模原）～下流（神奈川県下、相模湾岸都市）

この運動に取り組んだ当初15年前から、足元の相模湖・小原本陣の森、若柳嵐山の森活動を固めつつ、流域各地を繋ぐ活動拠点の布石を打って来た。

〇源流・上流：富士河口湖町（天上山の森岩本さん）、大月市（黒野田の森河西さん）

〇中流：北都留森林組合長田さん、津久井郡森林組合坂本さん、ＮＰＯ緑のダム北相模

並行して、相模原市が策定・公表した「さがみはら森林ビジョン」が形になり始めている。

〇下流：緑のダム北相模兼松さん、緑のダム湘南の森岩沢さん

夫々の活動は、地域の事情に叶った自由な活動で展開しているが、共通の活動理念は〝森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない〟である。

昨日24日（土）は、相模湾沿いの「緑のダム・湘南の森」の活動に参加した。「湘南の森」は、「湘南平～浅間山～高麗山」とかなり広い地域を管理しており、主に浅間山の整備に力を入れている。暫くぶりの参加だったが、この森の変身ぶりには驚かされた。藪・つる草に覆われた森が見事に見通しの利く、散策に楽しい広葉樹林になっている。この日は、地域の進和学園苗圃農場からの参加と「苗　さくら、コナラ、クヌギ約150本」の寄付を得て植林した。浅間山では、春には桜、初夏には青葉・若葉、ヤブランの群落、秋には彼岸花が咲き乱れる。

流域活動は、森林保全がメインだが、過日17日には「さがみはら森林ビジョン・検討会」を相模原市環境情報センターで行った。40人会議室に85人の参加があった。

また、４月７日（土）～８日の「第39回相模原さくら祭り」では、市役所横の第２駐車場を借り、15団体の協力を得て「実践　さがみはら森林ビジョン」を広報する。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.04

4月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

4月15日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

3月4日（第一日曜日）

　まだまだ寒さの残る3月の活動にはForest Nova☆からは学生時代最後の活動となる4年生1名を含む7名が参加しました。6名が中里山の径路作りを行い、1名が嵐山で材加工等の木工を行いました。
小原の山に向かう途中の径路に以前作った水の通り道にしっかりと水が流れていてとても感動しました。雪の上には、タヌキの足跡があり、タヌキも径路を利用していることがわかりました。
　これまで作った径路を踏みしめながら、上に登り作業を開始しました。しかし、径路や杭に使える木があまり落ちていなかったので、欠頂木や曲がっている木など5本間伐しました。しかし、木がたくさんある小原では、木が掛かりやすく、また、藤などの蔓がとても多く、一筋縄では、倒れませんでした。どこに倒すか、掛かった木をどうやって倒すのか、どの木を倒すかなど経験の浅い私には判断できず、4年生や、緑のダムの方の指示を待ってしまうことが多かったので、自ら考え、行動し、経験を積んでいくことが大切だと思いました。

　また、Forest Nova☆が持っていったノコギリは歯が欠けていたり先端がなかったりと、あまり使いものにならないノコギリばかりでした。さらに、枝を払うときにはノコギリよりも、ナタの方が使い勝手が良さそうだったのでナタも必要だと思いました。何を持っていくのか、道具の状態はどうなのか、しっかり確認しなければいけないと思いました。

　山を降りながら、神宮さんや、川田さんに草の名前を教えていただきました。なかなか、覚えるのは難しいけど、冬場でも沢山の植物が楽しめました。
　活動後には山主の小林さんの家に招待していただき、4年生のお別れ会を行いました。小林さんだけでなく、近所の方や子供たちが大勢集まってくださり、美味しいご飯と、美味しいお酒と、沢山の愛情を頂きました。本当に嬉しくて、温かさを感じ、活動での疲れが吹き飛ぶとともに、森での活動をさらに頑張っていきたいと思いました。
　4年生は今回が最後でしたが、在校生だけでもやっていけるんだ！と思ってもらえるように、今後の活動でさらにスキルアップしていきたいと思います。よろしくお願いします。

望月　亜佑子（Forest Nova）

[定例活動]若柳嵐山の森

3月18日（第三日曜日）

まきわり、たき火、小雨の野点の日

　まだまだ冬日の寒い三月、森のガーデンでは紫と黄色の固い蕾の（つぼみ）クロッカスが愛らしくチョコンと立つ姿！。
この日の参加者は、小林会員のお誘いで初参加JJK（全国住環境改善事業協会代表、岩倉春長氏）５名、生命の森宣言・東京６名、ForestNova12名、杉並区立高井戸中学校13名、北都留森林組合から指導の3名、一般参加他33名、合計72名。
　始まりの朝の準備体操は、ForestNovaの治田さんの軽快なおしゃべりを交えて楽しい。

　JJK 森プロジェクトを組んでの第一回目の森作業は、ロープでエンヤコ～ラ、間伐材降ろしに精を出す。いずれは、森現場に破砕機を持ち込んでチップにして運搬するなど、いろんなプロジェクト作りが楽しみだそうだ。

　森林整備班　24年度は、県・市と協力協約の森林整備、1.11haを契約した。場所は、県道から嵐山の森入口から頂上に向かう左手の45～60年生の絶好の杉林。20％間伐、8mの枝打ち。ここは、東海自然遊歩道の入口に位置しハイカーが沢山通過する。そのハイカーたちを〝嗚呼、森がこんなに美しかったのか！“・・と唸らせる。
　この森を神奈川県内随一の美林に仕上げ、見学者受け入れの見本林にする。わが国唯一の市民団体NPOが管理している国際認証林を内外に示して恥じない森にする。この事業に取り組むに当たって森林経営、技術指導に定評のある、北都留森林組合の中田参事にお願いした。
　この日、北都留の中田参事とベテラン作業指導員・繁昌さんに契約地の地形・樹相を見てもらって伐倒木の搬出方法・作業道を含む施業計画書を作って頂く事にして、当会ベテラン会員が森の巡察に同行した。同行の生命の森宣言の佐藤班長は、「定評のプロから，重機やタワヤー

取り掛かれるとは！」と喜びと楽しみを爆発させていた。

また、福島原発の放射能汚染が大きく報道されているが先月、このような測定技術に精通している岡田会員が測定班5名を編成して森の中・町の中、夫々5定点を測定した。いずれも無害な低線量。念には念を入れてと今月は測定器を換えて同地点を測定した。結果、先月と同じとなった。この森に参加する小学生・中学生の親も安心して、子供を森に送り出す配慮でもある。

ところで3月は、毎年恒例の「森の中の野点・茶席の日」。栗田宗久さん、お点前で白梅の一輪挿しに静謐の優雅・豊かになるひととき。と思いきや、小学生や中学生は（お茶菓子がお目当て？！）でお茶席は大賑わい。

黒川養蜂班は、蜂蜜の採取時期とて、何と！、今では貴重な〝日本蜜蜂“の本物蜂蜜を提供してくれた。琥珀色の蜂蜜の〝ウ～ン、甘い・旨い”、舌鼓を打った老若男女。

ForestNovaは、3月24日の「小原町・灯篭祭り」、4月7日～8日の「第39回・相模原桜祭り」の準備で桂北小の子供と楽しみながらのイロイロなものの制作。

中学生は、薪割りが面白くて面白くて・・・、入れ替わり立ち代わり腕を競った。割った木での焚火も豪華。森の神様も若返る。

小雨の森でも、森は何か人を生き返させる温かさ！、を感じた一日でした。

伊藤小夜子（本会、会員）

上２枚：中学生の薪割り大会
左下：森林整備班より
右下：野点の様子

[報告１]
湘南の森活動報告

2月25日

この日は地元のなでしこ小学校５年生を招いてヤマザクラの植林を一緒に行う予定でしたが、あいにくの雨で子供たちはキャンセル、苗だけはピックアップしてきたので、我らだけで植林を行うことにしました。本降りの雨の中、全員雨具を来ての作業になりました。事前に地拵えしておいたので、植林は難しい作業ではありませんでした。 両手で慈しむように苗を植え、雨で土が柔らかくなっていることを勘案、 周囲を踏み固めました。この苗は進和学園の生徒たちが３年前に 種（サクランボ）を蒔いて作ったポット苗です。苗の前には、私たちの「しっかりと育って、次の世代を担って欲しいとの私たちの思いをつづったミニ看板を設置しました。

実はこの植林が正式に許可になったのは前日のこと、ここに至るまで色々と粘り強い交渉が必要でした。ここに至るまで、即ち、平塚市の担当課の認知 を得るまでに、なんと５年以上もかかったのです。今回、大きな壁を乗り越えたことを経緯に、今後、ますます植林作業を強化して、老木の多いこの森の若返りに貢献したいと思います。

なお、今回初参加の神奈川会会員の田中さんは、森の麓の万田というところに在住、 奥さんとともに入会して下さることになりました。今後、有力な助っ人となることが期待されます。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
県境を越えた流域連携による森林整備

3月18日

山梨県にある北都留森林組合の中田と申します。神奈川県、山梨県、県境を越えた流域連携による森林整備、協働作業、その第一歩が今はじまろうとしている。

今回、石村代表からの要請を受け、若柳における平成24年度協力協約1.11haにおいて何ができるか、当組合職員３名が参加し、現地踏査を行った。

森林作業道はどこにつけられるか、どこまで搬出間伐ができるか、地形、地質を地図と確認しながら対象森林全体を石村さん、川田さんらと共に一周した。

今回の樹種はスギ、ヒノキ、林齢は44～47年生、間伐率は20％程度。

ＮＰＯと森林組合が協働で事業を実施する場合、それぞれの役割分担が必要となってくる。

重機がなければ出来ない作業、人力で対応できる作業、それぞれ分け補助金を上手に活用しながら事業計画を立てていきたい。

そして、この新たなＮＰＯとの協働事業を成功させるために全力で取り組んでいきたい。

中田　無双
（北都留森林組合　参事）

北都留森林組合と打合せ

[報告３]
嵐山活動フィールドの空間放射線測定活動

3月18日

２月１９日、３月１８日の定例活動日にあわせて、放射線量測定班をつくり、嵐山の作業地域の主なスポット２０カ所の計測をおこないました。

福島の原発事故から１年、放出された放射線源が直接チリになって飛散したり、海水中に排出され、様々な生物の営みによって拡散するなど、環境を汚染していることが問題になっています。

日頃の私たちの活動している嵐山の作業地域がこの事故の影響で

[1] 空間放射線量が子どもが学校で活動できる基準値を超えていないかどうか。

[2]森林という特別な環境下で樹木の根元、堆積した落ち葉、雨水の流路など、特に高い放射線量を示す箇所ができていないかどうか。などを確認することを目的にした測定です。

ちなみに相模原市では１日のうち８時間を屋外に、１６時間を屋内にいるという生活スタイルを標準に１時間あたり0.23μSv以下を目安にしています。これは子どもたちの放射線被曝量を年間１mSv以下に抑えるという文科省の指導目標に対応したものです。

また、自然界では、宇宙線や大地にある放射性物質の影響で、もともと自然放射線とよばれる環境中の放射線があります。これは地域によって違いますが、神奈川県は平均0.04μSv/hが測定されています。実際の測定ではその前後で常に変動しています。

したがって、この自然放射線以上の大きな数値がでれば事故の影響で追加された放射線の疑いがあります。

２月の測定ではガイガーカウンター（機種Inspector+:アメリカ製）を使って、嵐山の２０カ所の

他、比較のため相模湖駅や中学校を含む市内の数値も測定しました。

その結果は0.06μSv/h ~ 0.16μSv/hの間でこれは市街地での測定結果もあまり変わりませんでした。つまり、森林作業で市街地以上の被曝の危険はなく、しかも対策が必要な放射線量より十分に低い環境にある、という結果でした。

相模原市でも各所で放射線量の測定がおこなわれています。この場合、0.1μSv前後の低い放射線量を測定するのに適した、シンチレーション式という測定器が使われています。

そこで、３月１８日にはガイガー式とシンチレーション式（機種PA1000Radi：日本製）の２機種を使って同じポイントの測定をおこないました。

その結果はガイガー式が0.09 ～ 0.15μSv/hと前回とほぼ同じ範囲。ガイガー式の活躍する高線量の場所は幸いにもありませんでした。

シンチレーション式では0.036 ～0.077μSv/hの範囲を示しました。シンチ式の方が低線量ではより正確な値を示す特徴があるので、この結果なら、事故前の自然放射線の値とさほど変わらず、嵐山では現段階では福島原発事故の影響は心配ないと言える結果です。

２月の測定でも、３月の２機種による測定でも、移動しながら大きな放射線量を示すホットスポットがあれば確認する作業もやりましたが、放射線源を探る必要のある高い数値はでませんでした。

全国で森の緑や水を守る活動をすすめる上では、原発事故による環境汚染と向き合うことは、これから先何十年にもわたる大切な活動になります。今回の測定活動はその一つとして貴重な経験になりました。測定スポットについては川田、内野両理事の指導をうけました。

岡田　陽一（本会、会員）

嵐山の活動から
ForestNovaの灯籠づくり

[報告４]
フォレストノバ活動報告

3月20日

私たちForestNova☆は、３月で4年生が卒業し、幹部交代を行いました。

そこで、今回のニュースレターは卒業生と新代表、副代表のあいさつとさせていただきます。

初めて嵐山に来た時、間伐という言葉も知りませんでした。それから沢山の人たちと出会い、色々なことを教わり、「森をどうにかしたい」という気持ちが強くなっていきました。私がこれから働くところは里山の森で、林業とは直接関係はありません。けれど人工林だけでなく色々な森をしっかり見て、森とどう付き合っていきたいのか考えていきたいと思います。4年間、「良かった」と思える経験をたくさんさせていただきました。本当にありがとうございました。

神宮　理沙（麻布大学4年）

ForestNova☆４年の廣石由美です。活動を続けて４年となり、早卒業を迎えることになりました。これまで活動することができたのは緑のダムの方々のサポートや、サークルの仲間がいたことが大きく、ノバでは森林整備の技術を始め、イベント運営や勉強会など様々な経験を積むことができ、活動を通してとても成長できました。社会人になってもノバで得たことを忘れず、今後に活かしていきたいと思います。今まで本当にありがとうございました。

廣石　由美（麻布大学4年）

去年の４月にForest Nova☆に入って、最近小原や嵐山に愛着が湧いてきました。

森での作業はまだまだ分からないことも沢山ありますが、先輩方や緑のダムの皆様に教えて頂きながらこれからも頑張っていこうと思います。また、副代表として瀬戸さんを支えると共に、Forest Nova☆を盛り上げていきたいです。

４月から新体制となりますが、これからもよろしくお願いします。

吉崎香代
（麻布大学１年
ForestNova☆副代表）

今年度からForest Nova☆の代表になりました麻布大学２年の瀬戸智大です。

Forest Nova☆に入ってからの二年間で、人工林は持続的に管理し続けなければならないこと、森にはたくさんの人の想いがつまっていることを学びました。

僕もそんな団体の代表をやっていけるのかという不安と、これからも森について関わっていける喜びが入り交じっています。

これからもたくさんの人の想いがつまった森に関わっていきたいと思っておりますのでこれからも一同よろしくお願いします。

瀬戸智大
（麻布大学2年
ForestNova☆代表）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

イベント告知：相模原市さくら祭に参加します

４月７日土曜日、８日土曜日の相模原市民桜まつりに出展します。恒例のミニSL、積み木広場（今回は上智大学支援でアンコールワット制作をします）、ForestNova（時計づくり他）、JFIK（木に親しむクラフト制作）などが企画を準備中です。市役所横駐車場二階です。ぜひ、お越し下さい。

イベント報告：国産材の積み木で東京駅舎をつくろう写真でご報告

４月１日まで６日間にわたって行われた本イベントの様子を写真でご紹介します。詳細は来月号にて報告します。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版